

# 「しつけ」の難しさ

大和君が無事に保護され、本当にホッとした。暗い山中に一人で置いて行かれ、どれほど不安で、怖かったことか。置き去りにされた場所から離れてしまったのは、あまりの恐怖に、じっとしていられたからだったからかもしれない。

今回の件は、明らかにしつけを逸脱している。親が言いつことを聞かない子どもに腹を立て、いらぬ力をぶつけることはありがただが、行きすぎた対応をし

恵泉女学園大学長  
大日向雅美氏



おおひなた・まさみ 育を・代  
専門は発達心理学、な  
て支援。育心相談「あい  
行うNPO法人「あ  
ぽーとステーション」  
表理事。65歳。

「しつけ」という言葉で合理化してはいけない。アメリカなどでは、虐待に当たるとして罪に問われるケースだらう。

だが、「こまる」ではなく

とも、思わずカーッととなつて子どもに厳しい叱責をしてしまつては、多くの親が経験しているはずだ。子どもに手を上げたり、ペラペラに出したままにしたり

する事例はよく耳にする。親が冷静さを欠いて激しい行動に出てしまつて背景に注がれる視線が厳しくなつたこともあるのではない

か。電車の中で泣く子どもに嫌な顔をされたたり、子どもがうるさいからと保育園の建設が近隣住民の反対を受けたりと、子育てを巡る環境は厳しくなっている。

「自分がきちんと子どものしつけをしないと」と気負つてしまふ親は多い。

父親は、大和君が車や人に石を投げつけるなどしたため、「しつけ」として報道されているが、「しつけもできない親」と思われたく

なくて、行き過ぎた行為に つながった可能性もあるのではないか。

日本人全体が「待つ」とが難しくなっている。人と連絡を取るにも、昔は手紙を書いて投函し、返事を待つというように何日もかかった。ところが今は、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)で一瞬で反応が返ってくるのが当たり前になり、結果や効果をすぐに求めるようになった。子どもが言うことをきく時間をじっと待つことができない親が少なくなつてきているように思う。

親が冷静になつて子どもと接し、周囲も親を寛容さを持って見守る。今回の問題は、親だけではなく社会全体で教訓にすべきだ。(教育部 泉田友紀)

北海道の山中で行方不明になり、6日ぶりに保護された小学2年田野岡大和君(7)の両親は、「しつけのため」として、わが子を置き去りにしていた。一歩間違えば、命に関わる事態にもなりかねなかった今回の放置騒動。親の子に対する「しつけ」は、どこまで許されるのか。2人の専門家に心構えや注意点を聞いた。(本文記事1面)

## 「世間の目」親に気負い 納得するまで説得大切



あさい・はるお 専門は児童福祉学、困窮な子どもやいびい指導員として12年間勤務。64歳。

それに対して、子どもが反発したり、理解しなかつたりした場合、時間がかかっても、言葉を尽くし、子どもが納得するまで説得しなければいけない。子どもは、親に注意されただけでは行動を改めないので、初めから行動を改め、二度とそのような行動をしなくなるから

子どもは、自分で自分の命を守ることができず、親に保護されないと生きていけない存在だ。そのため、どれほど虐待されている子どもでも、最後まで親をかがむことが多く、最も信頼し、自分の命を守ってくれるべき親から突き放された経験は、心に深い傷となって残る。子どもを命を危険にさらしたり、心に深い傷を残したりする行為は虐待に当たるので、絶対にしてはいけない。

「これまで、多くの大人が、「しつけ」といふ言葉で、子どもの意思や命を考えない振る舞いを正当化してきた。大人の論理だけで「しつけ」といふ言葉を使うのは、もう終わりにすべきだ。(生活部 吉田尚大)

「しつけ」とは、漢字で「躾」と書くように、「身」「美」という字を組み合わせたものだ。子どもが善を上手に使えるように教えるなら、体を上手に美しく動かせるようにさせることを指す。

また、社会の中で、その社会の文化を尊重しつづつ、人に迷惑をかけない振る舞いを教えるのも「しつけ」だろう。

子どもは、親が教えたからといって、すぐに従つたり、やるべきようになってたり、

するものではない。「しつけ」には、「説得」と「納得」の両方が必要だからだ。

子どもは、石を投げるなど、人にけがをさせたり物を傷つけたりする恐れがある

る遊びをするところがある。その場合、危険な行為をすくなくせよせよのために、手を押さえるなど、力を伴つた手段もやむを得ない。

だが、その後は、必ず

「石が当たって人にけがをさせるかもしれない」「車を傷つけるかもしれない」「投げつけてはいけない理由を言葉で言い聞かせる必要がある。

子どもは、自分で自分の命を守ることができず、親に保護されないと生きていけない存在だ。そのため、どれほど虐待されている子どもでも、最後まで親をかがむことが多く、最も信頼し、自分の命を守ってくれるべき親から突き放された経験は、心に深い傷となって残る。子どもを命を危険にさらしたり、心に深い傷を残したりする行為は虐待に当たるので、絶対にしてはいけない。

子どもは、自分で自分の命を守ることができず、親に保護されないと生きていけない存在だ。そのため、どれほど虐待されている子どもでも、最後まで親をかがむことが多く、最も信頼し、自分の命を守ってくれるべき親から突き放された経験は、心に深い傷となって残る。子どもを命を危険にさらしたり、心に深い傷を残したりする行為は虐待に当たるので、絶対にしてはいけない。

子どもは、自分で自分の命を守ることができず、親に保護されないと生きていけない存在だ。そのため、どれほど虐待されている子どもでも、最後まで親をかがむことが多く、最も信頼し、自分の命を守ってくれるべき親から突き放された経験は、心に深い傷となって残る。子どもを命を危険にさらしたり、心に深い傷を残したりする行為は虐待に当たるので、絶対にしてはいけない。